

La version française ci-dessous.

## <日本語>

### 1. 自己紹介

ホサームと申します。23 歳、大学生、アルジェリア出身。日本語を独学で勉強し始めてから 5 年。

### 2. 日本とのつながり

最初は言葉に惹かれ、日本人がほぼいない国でインターネットを使った日本語の「楽しい独学」に熱中し、いずれは日本という国のすべてを研究することが趣味に。SNS の力のおかげで日本の大切な友人知人ができました。

### 3. 旅行記

地中海を越え、アジア横断してやっと、夜な夜な Tokyo International Airport と光る文字が飛行機の窓から見えてきました。

スムーズに入国して、空港を出て、チェックインの時間に間に合おうとバスに、そして電車に乗りました。

重い荷物を抱えながら、駅や電車内に漂う様々な香りや、周りの光景に鼻と目を刺激されながら、初めて覚える異国感にただただ浸りました。日本にいる、とだけ思いました。

夜に着陸したため、ホステルのチェックインの時間に間に合いませんでした。そこで一つ救ってくれたのはインターネットカフェ。

アルジェリアでネットカフェと言えば、デスクトップパソコンの前で座る形式を連想しますが、日本のネットカフェはなんと、「鍵付き完全個室」というオプションも可能です。無料で使えるトイレやシャワー、食事もあるので、言い換えると時間制ホテルといったようなサービスで、早速利用しました。

初日早々、日本社会の便利性を享受できていました。

初めての海外ということもあり、ストレスや失敗は不可避でしたが、宿に着いて長旅の疲れをとってから街に出ました。

池袋の色鮮やかな街並みやピカピカというほどキレイな道路に魅了され、思わずカメラのシャッターを切りました。高いビルに掲げてあるカラフルな広告から、日本語で書いた注意書きまで、今まで画面越しに見てきた日本の風景が現実味を帯びて、感動の塊でした。

腹が空いていたので、近くのスーパーに入ってみると、仕事帰りの人々がズラッと置いてある多種類の弁当から選んでいる様子を見ました。全部新鮮そうで美味しそうだったので、私もお米とサーモンの一切れが入った弁当をひとつ選んで買いました。世界でも知られる日本の「お弁当文化」を体験できて面白かったです。

メジャーなスーパーはキッチンが付いており、そこでフレッシュな弁当を作っているのが驚きでした。

アルジェリアでよく思われているのと違って、日本食は主にお米、魚介類、野菜、そして調味料で成り立っていてシンプルです。強い味付けを禁ずる仏教の教えに関係あるらしいです。アルジェリアでは考えられない生の魚は意外と柔らかく、白米と醤油との相性が良くて美味しいです。

最初の一、二日は案の定、時差ボケに襲われましたが、真夜中に外に出ると、なんと営業している店がいくつかあるんです。聞いたことのある話ですが、日本のコンビニエンスストアは「コンビニエンス」の名を貰って、豊富な品揃えに加えて営業は 24 時間！

たしか、一番最初に向かった名所は皇居でした。かつて江戸幕府の拠点だったこのお城は波乱万丈な歴史を辿ってきました。

そこから徒歩で東京駅へ。およそ 100 年前に建てられたこの洋風な駅舎は西洋の文明が日本に伝わった時代を象徴しています。洋風と言いつつも、日本でしか見ないようなデザインで、当時の日本人が自らの解釈で再現した洋式建築がうかがえます。東京駅と皇居とガラス窓のビル群は、互いに対照をなして、そこに立つと日本の様々な時代を一望できます。

また別の日、渋谷という、あまりにもワクワクする駅名を目指して、日本の最大手鉄道会社JRの「山手線」に乗りました。駅を出ると、期待通りに、そこには名だたるSHIBUYA109のビルが空にそびえていました。平成時代のギャル文化などの象徴であるこのビルを目で見て、心が躍りました。

ほかにも秋葉原や、数多い作品に登場する歌舞伎町一番街アーチなど、サブカル関連の観光名所を転々と訪れました。

日本語スピーチコンテストに参加したのは、実は昨年 10 月にアルジェリアを訪れていた加藤さんに励まされたのが大きいです。あの時は日本に行くなんて、まだ遠い夢のような話でしたが、とりあえず「日本で再会する」と約束をしていました。

約束が思ったよりも早く叶い、加藤さんは手厚くもてなしてくれました。ちなみに、大好きと言っていたアルジェリアのジュースのお土産をサプライズで渡したら大喜びをしました。

私の興味をそそっていた新宿をとってもよく知っているということで、まずは近くの寄席で落語や漫才という日本の伝統芸能を観劇。アルジェリアでよく落語を聴いたり研究したりしていたので、寄席に実際に入るなんて、シュールな体験でした。想像通りの木造の舞台で、様々な方面で感動していました。

そのあとは高いビルが建つ西新宿のビジネス街を歩いて、日が沈んだら、ホテルの展望台に登って、東京の夜景を楽しみながら加藤さんと乾杯しました。

---

日本語を勉強したことのある人は、必ず「日本には四季がある」という文言を聞いて、その言葉に困惑した経験があるでしょう。なぜなら、世界のどこにでも四つの季節がある筈だ、と思ってしまうからです。但し、真冬に日本を訪れた私はその言葉の意味を少し理解してきました。日本の季節はどれも「本気を出す」のが特徴なのです。春秋は色鮮やかで景色が美しく、夏冬は気温が極端です。

そこで、頼りとなってくれたのは「地下街」です。日本の都会には迷路のように広い、駅から駅まで続く、文字通り地下の街があるのです。地下街は大概暖房が効いていて、地上が寒い時にもってこいでした。

また数日が絶ち、上野で寺社巡りをしてそばを一杯食べたあと、SNS のアカウントに渡部さんという方から驚くメールが届きました。「毎日新聞の記者で、よかったらインタビューをしたい」との趣旨でした。

日本最古と言われる新聞なので驚愕の提案でしたが、早速会いたいと答えて即日に合流。

原宿や渋谷を歩き、お喋りをしながら写真を撮っていただき、一日を一緒に過ごしました。その数日後、私の顔が毎日新聞の都内版に載りました。

初の日本旅行でこのような機会を頂戴し、ありがたいとともに誇らしく、光栄に思っています…

冒頭に、駅などに漂う香りの話をしましたが、これは醤油などといった、料理っぽい香りのことでした。のちに聞きまわったら、これは多くの旅行者が感じているようですが、現地の日本人は日頃から慣れているためか、聞いても「分からない」の一言です。僕にはハッキリと分かっていた甘くておいしい匂いです。

日本はあくまで資本主義社会で、よくも悪くもアルジェリアとの明確な違いを感じました。例えば、アルジェリアでは個人営業が多いのに対し、日本ではスーパーや金物店でも大手グループや会社の支店が殆どです。それと、色んな顧客層に向けた商品や、娯楽の種類も多く、出費に気をつけなければ大変です！

もちろん、これは都会の話です。

次の拠点だった奈良へ向かうと、そこには東京とまた違う世界が広がっていました。南都と名付けられる奈良は規模が小さい都市で、非常にひっそりとしていて、大都会のような繁華街が少ないですが、どこを見ても日本家屋や神社仏閣が並び、日本のもうひとつの側面に始終魅せられていました。

奈良で泊まったゲストハウスも内装が和風な感じで、トルコやアメリカなどの世界中の宿泊者と交流しながら、ホームステイのような居心地良い日々を過ごしました。

奈良では毎日のように、世界でも有名な奈良公園を通り、のんびり放浪する鹿さんにあいさつをしてから、時には数年もの歴史があるお寺で神秘的な大仏たちを見物して、また時には近鉄奈良駅から関西の様々なところに往復していました。

逆に、ひっそりで伝統的な旧市街のイメージしかなかった京都は、実は都会で、多種多様の建築が揃っている街です。

三島由紀夫の名作で強く憧れていた金閣寺を生で見物したあと、ついでに銀閣寺も寄ろうと思いましたが、これは楼閣が古い割に境内には緑鮮やかな庭園があって、高台から感激させられる京都の全景を眺めることができました。本当に行って良かった

と思いました。

日暮れの清水寺で、和服姿の人々に囲まれながら眺める夕日も忘れられない経験でした。

京都は都会でありながら非常に穏やかな雰囲気、人はもちろん、街並みも「お上品」な感じで、とても印象に残ったまちです！

同じく SNS で繋がっていた大阪に住む吉岡さんから声掛けをいただいたので、ドライブで案内していただきました。大阪の高層ビルの間を走行して、アルジェリアでは味わえない雰囲気に浸りました。淀川を越え、高い杉の木が茂っている箕面という自然豊かなところまで連れて行っていただきました。

大阪市内は東京並みに活発ですが、ところどころ昭和を感じるレトロな街並みもあって、おすすめの街です。大阪人は東京人の生真面目な気質と違ってユーモアたっぷりな性格で知られます。

吉岡さんの関西弁を生で聞いたのも嬉しかったです。

別の日に、ネットで見て魅せられた滋賀県の近江八幡という歴史的な街も行ってみたいと思ったので、ちょうど滋賀県に住む奥村さんご夫婦にドライブをしながらガイドを務めていただきました。美味しくて高級なうなぎを奢っていただき、お茶漬けという、ご飯にお茶をかける新鮮な食べ方を教えてくれました。

そう言えば、日本の和食店では無料で熱々なお茶がでますが、日本で飲むお茶はアルジェリアと違ってなんと、砂糖が全く入っていないのが驚きでした。皆さんは食事と一緒に水のような感覚で飲んでいたのですが、私もそうしてみたら徐々にしっくり来るようになり、大好物になりました。

近江八幡の街中を散策に。

街並みはともかく、よく保護されている古民家にも入り、畳が敷いてある博物館や資料館が印象に残りました。ちょうど 2 月中旬だったので、雛祭りのお雛さまたちが飾ってありました。

そう言えば、日本の「土足禁止」文化が有名ですが、実は博物館や和食レストランでも靴を脱ぐことがあるということに、多くの人が驚くのではないかと思います。

もちろん、はるばる滋賀県まで来たので、琵琶湖も必見。琵琶湖は日本最大の湖で、近畿地方の主要な水源です。古来からつたわる伝説によると、とある巨人が富士山を立てるために土を掘って、その跡が琵琶湖となったという。

海沿いに育った自分からしたら、「海の匂いがしない海」のようで面白かったです！

アジアの端っこの島国、というイメージの日本はみんなが思うよりも広い国で、予定していた広島や九州への旅は取りやめとなり、恋しくなっていた東京へ戻りました。

東京では、旅が好きでこれからアルジェリアに旅行で行くという稲村さんから連絡が来たので、居酒屋で食事をしながらアルジェリアの言語事情や物価事情などについて質問に答えました。

私の帰国後、稲村さんは実際アルジェリアに来ていて、アルジェで再会しています！

お返しとして今回は私が奢りました。コンスタンティーヌやオランも訪れて、我が国の国民の親切さや素直さを褒めてとても楽しく過ごしていました。

コロナ禍のときにネットを通じて仲良くなったイデモトさんは、アルジェリアで日本語の本が買えないことを知り、100冊近くの本を郵便で送ってくれて、日本という国を初めて身近に感じさせてくれた恩のある人です。上記の由紀夫三島の作品もその時の贈り物でした。なので「日本に行くことがあったら必ず会いたい」とずっと考えていました。古本屋の街として知られる神保町と一緒に巡って二人で古本を買ったりたこ焼きを食べたりする楽しい時間を過ごして、また彼を通じて日本語の教育に携わる色々な方々とも交流できました。

旅行の下編ということで、そろそろ「あの名所」も行かなくてはならないと思ったので、晴れた日を見据えて、新幹線に乗って、富士山が見える静岡県の富士市へ。新幹線自体も見どころの一つで、一回は乗っておきたいと思いました。東京から発車して30分、富士山はすでに車窓から姿を見せてくれました。数年前から動画を見て日本語のアクセントの勉強でお世話になった、YouTubeで活動するユウダイさんは、静岡出身ということで、ここで会うことになって、動画にも出演させていただきました。現地のレストランで静岡県の名物であるしらすと生の桜えびを食べましたが、これはなかなか勇気の要る料理でした！

実は日本で意外と楽しかったことは、電車なんです。全国では民営の鉄道会社が200社以上が存在し、毎日の乗り換えや色々な会社の見比べが楽しく、そして列車という発明やその種類にも興味が湧いてきました。前に不思議に思っていた「鉄道オタク」や「撮り鉄」というサブカルに理解が高まったものです！

---

ほかにも色々な方にお世話になりました。初日に助けてくれた佐々木さん、ゆりかもめと一緒に乗った実里さん、靖国神社と一緒に訪れたイヴァンさん、銀座でご飯を食べた鷹鳥屋さん、国際基督教大学を案内してくれた佐野さん…これほど手厚いおもてなしを見せてくださった日本の皆様はこの場を借りて感謝したいと思います。

この旅をひとつの言葉で表現するなら「有意義」と言うのでしょうか。

日本語コンクールを通してこのような機会を、私たちアルジェリアの日本語学習者のために設けてくださった日本国大使館の皆様、JT Internationalの皆様にも、深く感謝したいと思います。

お蔭様で、夢の一つが叶い、また別の夢がより身近に感じるようになりました。

一生、忘れない経験となりました。

～ありがとうございました～

## < En français >

### 1. Présentation de soi

Je m'appelle Houssam. Etudiant universitaire. 23 ans. Autodidacte du japonais depuis 5 ans.

### 2. Ma relation avec le Japon

Au départ, attiré par la langue japonaise et passionné pour l'apprentissage autodidacte en utilisant l'internet, cela m'a progressivement conduit à explorer tous les aspects du Japon comme loisir quotidien. Grâce aux réseaux sociaux, j'ai pu me faire de précieux amis japonais.

### 3. Mon voyage au Japon

En traversant la Méditerranée et l'Asie, j'ai enfin vu les mots lumineux "Tokyo International Airport" apparaître par la fenêtre de l'avion au cœur de la nuit. Après une entrée dans le pays sans encombre, je suis sorti de l'aéroport et j'ai pris un bus, puis un train, pour arriver à temps pour l'enregistrement à l'hôtel.

Avec mes bagages lourds, j'étais stimulé par les différents parfums flottants et les paysages des gares et des trains. Je m'immergeais dans cette sensation nouvelle d'être dans un pays étranger. Je ne pensais qu'au fait que j'étais au Japon.

Arrivé de nuit, je n'ai pas pu être à l'heure pour l'enregistrement à l'auberge. Ce qui m'a sauvé, c'était un cybercafé. En Algérie, un cybercafé évoque l'image de s'asseoir devant un ordinateur de bureau, mais au Japon, il existe des options de "chambres individuelles verrouillables". Avec des toilettes et des douches qu'on peut utiliser gratuitement, ainsi que de la nourriture disponible, c'était pratiquement un hôtel à la tarification horaire, que j'ai immédiatement utilisé. Dès le premier jour, j'ai pu apprécier la commodité de la société japonaise.

Étant mon premier voyage à l'étranger, le stress et les échecs étaient inévitables. Mais après m'être reposé à l'auberge, j'ai commencé à explorer la ville. J'étais fasciné par les rues colorées d'Ikebukuro et la propreté éclatante des routes, et j'ai instinctivement commencé à prendre des photos. Les publicités colorées accrochées aux hauts bâtiments et les panneaux d'avertissement dans écrits en japonais, tout que j'avais déjà vu à travers un écran jusqu'alors prenaient vie sous mes yeux. C'était émotionnel.

Affamé, je suis entré dans un supermarché à proximité et j'ai vu des gens rentrant du travail choisir parmi une variété de bentos (boîtes à repas) alignés. Tout avait l'air frais et délicieux, alors j'ai choisi un bento avec du riz et une tranche de saumon. C'était intéressant de découvrir la fameuse "culture du bento" japonaise.

J'ai été surpris de constater que les grands supermarchés avaient même des cuisines attachées où on préparait des bentos frais.

Contrairement à ce qu'on pense en Algérie, la nourriture japonaise est plutôt simple, se composant principalement de riz, légumes, fruits de mer, et quelques sauces d'assaisonnements. Cela trouve son origine dans les enseignements bouddhistes qui limitent les saveurs fortes. Le poisson cru, qui est impensable en Algérie, est en réalité

moelleux, et très bon avec du riz blanc et la sauce soja.

Comme prévu, les premiers jours, j'ai souffert du décalage horaire, mais en sortant au milieu de la nuit, j'ai découvert que certains magasins étaient ouverts. Les « convenience stores » au Japon, fidèles à leur nom, sont ouverts 24 heures sur 24 et offrent une large gamme de produits, comme des repas préparés, cosmétiques, etc.

Je crois que le premier site touristique que j'ai visité était le Palais Impérial, que j'ai vu de l'extérieure seulement. Ancienne base du shogunat Edo, ce château a une histoire tumultueuse. De là, j'ai marché jusqu'à la gare de Tokyo. Construite il y a environ 100 ans, cette gare de style occidental symbolise l'époque où la civilisation occidentale a influencé le Japon. Et bien que de style occidental, son design est une interprétation unique japonaise de l'architecture européenne de l'époque. La gare de Tokyo, le Palais Impérial et les gratte-ciel environnants offrent un contraste saisissant, permettant d'embrasser d'un seul coup d'œil différentes époques de l'histoire du Japon.

Un autre jour, j'ai pris la ligne Yamanote de la grande compagnie ferroviaire « Japan Railways » pour me rendre à Shibuya, un nom de gare qui évoque beaucoup d'excitation. En sortant de la gare, j'ai vu l'emblématique tour SHIBUYA109 s'élevant vers le ciel, symbole de la culture/mode "gyaru" des années 1990 – 2000. Voir ce bâtiment renommé était excitant. J'ai aussi visité d'autres monuments emblématiques des sous-cultures japonaises, comme Akihabara, quartier des fans de manga, et l'arc de Kabukichō à Shinjuku, présents dans des nombreux œuvres de fiction.

En réalité, la raison pour laquelle j'ai participé à un concours de discours en japonais est en grande partie grâce à mon ami Katō, que j'ai rencontré lors de sa visite en Algérie en octobre dernier. À l'époque, aller au Japon semblait un rêve lointain, mais nous nous étions promis de nous revoir au Japon. Cette promesse s'est réalisée plus tôt que prévu, et Katō m'a accueilli chaleureusement. Il s'est réjoui quand je lui ai offert en surprise son jus algérien préféré. Connaissant bien Shinjuku, il m'a emmené d'abord voir du rakugo et du manzai (des spectacles humoristes traditionnels) dans un théâtre qui s'appelle un « yossé ». Ayant déjà écouté et fait des recherches sur le rakugo en Algérie, entrer dans un yossé pour en voir en direct était une expérience surréaliste. Ensuite, nous avons marché dans entre les hauts immeubles du quartier des affaires à l'ouest de Shinjuku, et à la tombée de la nuit, nous sommes montés à l'observatoire d'un hôtel pour admirer une vue nocturne panoramique de Tokyo.

-----

Quiconque a étudié le japonais a sûrement entendu la phrase « Au Japon, il y a quatre saisons » d'une personne japonaise et a ressenti une certaine confusion, puisqu'il y a quatre saisons partout dans le monde. Cependant, ayant visité le Japon en plein hiver, j'ai commencé à comprendre cette expression. Chaque saison au Japon a une intensité particulière. Le printemps et l'automne sont éclatants de couleurs et de beauté, tandis que l'été et l'hiver ont des températures extrêmes.

C'est alors que les "chikagai" (villes souterraines) se sont avérées très utiles. Dans les

grandes villes japonaises, il existe des réseaux souterrains vastes et labyrinthiques qui relient les gares entre elles. Ces passages pleins de magasins et de stations de repos sont souvent chauffés, ce qui est parfait lorsqu'il fait froid à l'extérieur.

Quelques jours plus tard, après avoir visité des temples à Ueno et dégusté un bol de soba, j'ai reçu un message surprenant sur mon compte de réseau social. C'était de M. Watabe, un journaliste du Mainichi Shimbun, le plus ancien journal du Japon, qui souhaitait m'interviewer. C'était tellement inattendu, mais j'ai accepté et nous nous sommes rencontrés le jour même. On a passé la journée ensemble se promenant à Harajuku et Shibuya, en discutant et en prenant des photos. Quelques jours plus tard, mon visage est apparu dans l'édition de Tokyo du journal Mainichi. Ce fut un grand honneur d'avoir reçu cette opportunité lors de mon premier voyage au Japon.

Au début de mon récit, j'ai mentionné des parfums flottants dans les gares. Il s'agit d'une odeur forte de sauce soja et autres arômes de cuisine. En discutant avec d'autres voyageurs, j'ai découvert que beaucoup ressentaient ces odeurs dès leur arrivée au Japon, mais les Japonais semblaient ne pas le remarquer. C'était une odeur douce et délicieuse.

-----

Le Japon est une société capitaliste, et j'ai ressenti des différences claires par rapport à l'Algérie. Par exemple, en Algérie, il y a beaucoup de commerces indépendants, tandis qu'au Japon, la plupart des supermarchés et même des magasins comme des quincailleries appartiennent souvent à des grandes entreprises. Il y a aussi une grande variété de produits et de divertissements pour tous les types de clients, ce qui peut facilement mener à des dépenses excessives !

Bien sûr, c'est le cas dans les grandes villes surtout.

En arrivant à Nara à l'ouest du pays (Kansai), j'ai découvert un monde très différent de Tokyo. Surnommée « la capitale du sud » Nara est une petite ville historique calme, avec peu de quartiers animés. Partout, on voit des maisons traditionnelles japonaises, des sanctuaires et des temples, révélant un autre aspect charmant du Japon.

La maison d'hôtes qui était ma base dans cette région avait un intérieur japonais traditionnel, et j'ai passé des journées agréables à échanger avec des voyageurs de pays divers comme la Turquie et les Etats-Unis.

À Nara, chaque jour, je traversais le célèbre parc de Nara tout en saluant les daims libres. Quelques jours, je visitais les temples datant de centaines d'années avec leurs majestueuses statues de Bouddha. D'autres jours, je prenais le train à la gare de Kintetsu-Nara pour explorer d'autres villes de Kansai.

À l'inverse de l'image calme et traditionnelle que j'avais de la vieille capitale Kyoto, j'ai découvert une ville dynamique avec une grande diversité architecturale.

Après avoir admiré le célèbre temple du Pavillon d'Or, que je rêvais de voir grâce à l'œuvre du même nom de Yukio Mishima, j'ai décidé de visiter également le temple du Pavillon d'Argent. Bien que ce dernier soit plus délabré, son jardin verdoyant est magnifique et offre une vue panoramique sur Kyoto. J'étais vraiment heureux d'y être allé.



La vue du coucher du soleil depuis le temple de Kiyomizu-dera, entouré de personnes en kimono, était aussi une expérience inoubliable.

Kyoto, bien que moderne et dynamique, a une ambiance très paisible. Les habitants et l'architecture de la ville dégagent une impression d'élégance, qui m'a marqué.

Grâce à un contact sur les réseaux sociaux, M. Yoshioka, qui est d'Osaka, m'a invité à faire un tour en voiture dans sa province native. Conduire entre les gratte-ciel d'Osaka m'a plongé dans une ambiance que je n'avais pas connue en Algérie. On a traversé la rivière Yodo pour se rendre à Minoh, une zone riche en nature avec ses hauts cèdres.

La ville d'Osaka est aussi animée que Tokyo, mais il y a quelques rues rétro avec une atmosphère de l'ère Showa, je la recommande beaucoup. Les habitants d'Osaka sont connus pour leur personnalité humoristique, contrairement à la nature sérieuse des Tokyoïtes. J'étais aussi heureux d'entendre le dialecte du Kansai de M. Yoshioka.

Un jour, attiré par des images que j'avais vu sur Internet, j'ai voulu visiter la ville historique peu connue d'Omihachiman dans la préfecture de Shiga. M. et Mme Okumura, qui résident à Shiga, ont gentiment proposé de me guider en voiture. Ils m'ont offert un délicieux repas d'anguille de haute qualité, et m'ont fait découvrir l'« ochazuke », une façon de manger le riz vers la fin du repas en y versant un peu de thé vert.

En parlant de thé, les restaurants au Japon offrent gratuitement du thé vert, mais contrairement au thé algérien, on n'y ajoute absolument pas de sucre, ce qui m'a étonné au début. En buvant ce thé chaud avec chaque repas, j'ai fini par l'apprécier et c'est devenu l'un de mes préférés.

Ensuite, nous avons exploré les rues d'Omihachiman. Outre l'architecture, j'ai été impressionné par les anciennes maisons bien préservées et les musées avec leurs sols couverts de tatamis. En plein mois de février, j'ai eu la chance de voir les poupées traditionnelles du Hina Matsuri, fête consacré aux petites filles.

La culture japonaise de retirer ses chaussures à l'entrée est bien connue, mais beaucoup ignorent que cela se pratique aussi dans des établissements publics comme les musées et les restaurants traditionnels.

Évidemment, étant à Shiga, il fallait absolument voir le lac Biwa, le plus grand lac du Japon et une source d'eau majeure pour la région du Kansai. L'ancienne légende japonaise dit qu'un ancien monstre géant a creusé de la terre pour construire le mont Fuji, et cette région creusée est devenu le lac Biwa.

Pour quelqu'un comme moi qui vit proche de la mer, c'était amusant de découvrir une "mer sans odeur de mer" !

Le Japon, souvent perçu comme une petite île à l'extrémité de l'Asie, est en réalité un pays très vaste. Je n'ai pas pu visiter Hiroshima ni Kyushu comme prévu et j'ai décidé de retourner à Tokyo.

À Tokyo, j'ai été contacté par M. Inamura, un passionné de voyages qui prévoyait visiter l'Algérie. Nous nous sommes retrouvés dans un izakaya, où j'ai répondu à ses questions sur les langues et le coût de vie en Algérie. Après mon retour, M. Inamura est

effectivement venu en Algérie, où nous nous sommes retrouvés à Alger. Cette fois, c'est moi qui l'ai invité pour un repas. Il a également visité Constantine et Oran, et il a vraiment apprécié l'hospitalité et l'honnêteté du peuple algérien.

M. Idemoto, avec qui je suis devenu ami en ligne pendant la pandémie, savait qu'il était difficile d'acheter des livres japonais en Algérie. Il m'a envoyé près de 100 livres par la poste, ce qui m'a permis de me sentir plus proche du Japon pour la première fois. Parmi ces livres se trouvait l'œuvre de Yukio Mishima que j'ai mentionné. Je m'étais promis de le rencontrer si jamais je venais au Japon.

Nous avons passé un moment formidable à parcourir ensemble Jimbocho, le plus grand quartier des librairies d'occasion de Tokyo, en achetant des livres et en mangeant des takoyakis. Grâce à lui, j'ai également rencontré plusieurs personnes impliquées dans l'enseignement du japonais.

En fin de voyage, j'ai pensé qu'il était temps de visiter peut-être le plus important monument au Japon. Par une belle journée, j'ai pris le shinkansen (TGV) en direction de la préfecture de Shizuoka, pour y trouver le mont Fuji. Le trajet en shinkansen est une expérience en soi, et je tenais absolument à le faire. Trente minutes après avoir quitté Tokyo, le mont Fuji est apparu par la fenêtre du train.

J'ai rencontré Yuudai, un YouTuber originaire de Shizuoka, dont les vidéos m'ont aidé à apprendre l'accent tonal japonais. J'ai même eu l'opportunité de participer à l'une de ses vidéos. Nous avons dégusté des spécialités locales, comme les shirasu et les crevettes sakura crues, des plats qui demandent un certain courage !

L'une des choses que j'ai trouvé particulièrement amusantes au Japon, c'est le train. Le pays compte plus de 200 compagnies ferroviaires privées. J'ai adoré changer les train chaque jour et comparer les différentes compagnies. Cela m'a permis de mieux comprendre les sous-cultures des passionnés de trains, s'appelant « otaku du train » et « toritetsu » (photographe de train).

—————

Je tiens à exprimer ma gratitude envers tous les Japonais pour leur accueil chaleureux. Si je devais décrire ce voyage en un mot, ce serait 有意義 « significatif, de grande valeur ».

Je remercie également l'ambassade du Japon et JT International d'avoir offert cette opportunité aux apprenants de japonais en Algérie. Grâce à eux, un de mes rêves s'est réalisé et un autre est devenu plus tangible. C'est une expérience que je n'oublierai jamais.

